

学位被授与者氏名	桑山 隼人
論文題目	古代日本の崇りと災異説～陰陽道を中心に
論文審査結果の要旨	<p>六国史を中心とした日本古代の史料を丹念に拾い集めて考察を加え、歴史的展開を示すことが出来たことは評価できる。また史料に見える「占」「占筮」「卜筮」「著亀」などの語が具体的にどういった占いであるのかを確認する作業を綿密に行なったことは、正確な史料の読解につながっている。</p> <p>ただし一方において中国の災異説に関する先行研究の理解が不十分なため、災異・怪異への具体的対応の分析に若干不確かな点を残したように思われる。また論文全体の構成を見るに、各章の論点は方向性が分かれており、個別の議論を積み重ねて結論を導き出す形にはならなかった。</p> <p>第四章において「神祇官は専ら原因という「過去」について、陰陽寮は対処法という「未来」を判断しているという一種の役割分担を行っていたと考えられる。」という、先行研究では指摘されていない興味深い論点を提示しているが、これを立証していくには、軒廊御卜の詳細がわかる平安後期から中世の史料の検討が必要であり、今後の研究課題となるだろう。</p> <p>令和3年2月16日に、審査委員全員の出席のもとで遠隔による最終試験を実施して学力を確認し、論文の説明を受け、質疑応答ののちに、全員一致で当該論文が修士（比較文化）として十分な内容であると判定した。</p>